MATTINGLY, STANGER, MALUR & BRUNDIDGE, P.C.

ATTORNEYS AT LAW

JOHN R. MATTINGLY DANIEL J. STANGER SHRINATH MALLIR* CARL I. BRUNDIDGE

COLIN D. BARNITZ GENE W. STOCKMAN Or Counsel

JEFFREY M. KETCHUM Registered Patent Agent * Bar Membership Other Than Virginia 1800 DIAGONAL ROAD, SUITE 370 RECEIVED PATENT, TRADEMARK ALEXANDRIA, VIRGINIA 2231 CENTRAL FAX CENTER AND COPYRIGHT LAW FACRIMILE: (703) 684-1157

OCT 03 2006

(703) 684-1120

Date: October 3, 2006

FACSIMILE COVER LETTER

Facsimile Number: 571) 273-8300

To:

Examiner C. E. Walter

Group Art Unit 2188, USPTO

From:

Mr. Carl I. Brundidge

MATTINGLY, STANGER, MALUR & BRUNDIDGE, P.C.

Re:

USSN 10/663,732

Attorney Docket No.: 501.43144X00

CERTIFICATION OF FACSIMILE TRANSMISSION

I hereby certify that the following listed documents are being facsimile transmitted to the U.S. Patent and Trademark Office on the date shown below:

PETITION REQUESTING RE-CONSIDERATION OF Information Disclosure Statement UNDER 37 CFR §1.97(f) with attached copy of JP 3-288934.

October 3, 2006 Date

Attorney Carl I. Brundidge

Reg. No. 29,621

Total Number of Pages (including cover sheet): 12

If the facsimile you receive is incomplete or illegible, please CALL (703) 684-1120. Thank you.

501.43144X00

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicants: T. MURAKAMI

RECEIVED

CENTRAL FAX CENTER

Serial No.:

10/663,732

OCT 03 2006

Filed:

September 17, 2003

For:

METHOD, COMPUTER SYSTEM, AND RELAY DEVICE FOR DATA TRANFER AMONG PLURAL MEMORIES TO REDUCE THE NUMBER OF MEMORY DEVICES WITH RELATIVELY

SMALL STORAGE CAPACITY (Amended)

Group:

2188

Examiner:

C. E. Walter

PETITION REQUESTING RE-CONSIDERATION OF INFORMATION DISCLOSURE STATEMENT UNDER 37 CFR §1.97(f)

MS Petition Commissioner for Patents P.O. Box 1450 Alexandria, VA 22313-1450

October 3, 2006

Sir:

Applicants hereby Petition Requesting Reconsideration of a Information Disclosure Statement filed on December 7, 2004 under 37 CFR §1.97(f).

FACTS

An Information Disclosure Statement was filed on December 7, 2004 submitting copies of eight U.S. patents/publications and a Japanese published application (JP 3-288934). The December 7, 2004 Information Disclosure Statement was allegedly considered by the December 13, 2005 Office Action. However, Applicants submit that in paragraph 1 of the December 13, 2005 Office Action, although the Examiner indicated that the December 7, 2004 Information Disclosure Statement was considered, the Examiner did not initial the Form PTO-1449 indicating that JP 3-288934 had been considered. During a telephone call to the Examiner Applicant was informed by the Examiner that JP 3-288934 did not include a concise explanation of the relevance of the reference.

The Examiner's reason for not indicating consideration of JP 3-288934 was not set forth in the December 13, 2005 Office Action. If the Examiner's reason for not indicating consideration of JP 3-288934 had been set forth in the December 13, 2005 Office Action, Applicants would have immediately corrected the inadvertent error since it was Applicants Intention to fully comply with the rules.

POINTS TO BE REVIEWED

In accordance with 37 CFR §1.97(f) the December 7, 2004 Information Disclosure Statement was a bonafide attempt to comply with 37 CFR §1.98. 37 CFR §1.97(f) states that if a bonafide attempt is made to comply with 37 CFR §1.98, but part of the required content is inadvertently omitted, additional time may be given to enable full compliance. Since the December 7, 2004 Information Disclosure Statement was a bonafide attempt, then additional time should be given to permit entry of the re-submitted Information Disclosure Statement attached herewith.

The re-submitted Information Disclosure Statement provides a copy of an English language Abstract of JP 3-288934 to permit consideration thereof.

703-684-1157

RECEIVED
CENTRAL FAX CENTER

ACTION REQUESTED

OCT 03 2006

Applicants hereby request that the re-submitted Information Disclosure Statement filed on even date herewith be entered as a submission to satisfy the requirement of full compliance of 37 CFR §1.98 with respect to the December 7, 2004 Information Disclosure Statement. An indication that the reference cited by the re-submitted Information Disclosure Statement has been considered is respectfully requested.

To the extent necessary, applicants petition for an extension of time under 37 C.F.R. §1.136. Please charge any shortage in the fees due in connection with the filling of this paper, including extension of time fees, to the deposit account of MATTINGLY, STANGER, MALUR & BRUNDIDGE, P.C., Deposit Account No. 50-1417 (Case No. 501.43144X00) and please credit any excess fees to such Deposit Account.

Respectfully submitted,

MATTINGLY, STANGER, MALUR & BRUNDIDGE, P.C.

703/684-1120 CIB/jdc Carl I. Brundidge

Registration No. 29,621

Also published as:

D US5257386 (A1)

DATA TRANSFER CONTROL SYSTEM FOR VIRTUAL COMPUTER SYSTEM

Publication number: JP3288934

Publication date:

1991-12-19

Inventor:

SAITO MASARU

Applicant:

FUJITSU LTD

Classification:

- international:

G06F9/46; G06F9/48; G06F9/46; (IPC1-7): G06F9/46

- european:

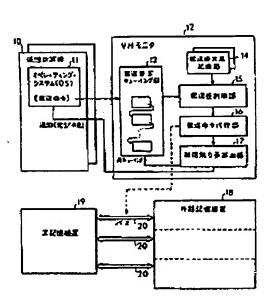
G06F9/46C4; G06F9/46R6 Application number: JP19900090590 19900405

Priority number(s): JP19900090590 19900405

Report a data error here

Abstract of JP3288934

PURPOSE: To prevent large deviation from being generated in the performance at every VM (virtual machine) by controlling the performance of data transfer to an external storage device in an operating system (OS) to be operated on each VM by a VM monitor. CONSTITUTION: The transfer data length of a transfer requirement to use a path 20 between a main storage device 19 and an external storage device 18 is divided with a transfer data length corresponding to transfer priority defined to each VM 10, and the data transfer processing of each VM 10 is controlled by a VM monitor 12 so that the transfer requirement of the other VM 10 can be interrupted in the middle of the processing. Therefore, a certain VM 10 is prevented from occupying the path 20 between the main storage device 19 and the external storage device 18 for a long time. Thus, any large deviation is not generated in the performance relating to transfer at every VM 10.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑩ 日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

@ 公開特許公報(A) 平

平3-288934

@Int, CL. 5

識別記号

庁内整理番号

❷公開 平成3年(1991)12月19日

G 08 F 9/46

350

8120-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

9発明の名称 仮想計算機システムにおけるデータ転送制御方式

20出

②特 顕 平2-90590

頭 平2(1990)4月5日

70杂明 者 斎 藤

图 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社

内

⑩出 願 人 富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

個代 理 人 弁理士 小笠原 吉義 外2名

明 湖 書

1. 発明の名称

仮想計算機システムにおける データ転送制御方式

2. 特許請求の範囲

CPUの非同期転送命令によってアクセス可能 な外部記憶装置(18)を備えた仮想計算様システム におけるデータ転送制復方式において、

各仮想計算機(18)の転送優先度に関する定義情報を記憶する手段(14)と、

各仮想計算機上で動作するオペレーティング・ システム(11)からの主記憶装置と外部記憶装置間 のデータ転送要求をキューイングする手段(13)と、 各仮想計算機の転送優先度に従って、1回の転 送データ長を担く制限する手段(15)と、

据く制限した転送データ長でオペレーティング ・システムからのデータ転送要求を代拝する手段 (16)とを備え、

オペレーティング・システムからの要求が満足

されなかった場合には、仮想計算概モニタ(12)内で自動的にまたはオペレーティング・システムからの要求により、再度不足分の要求をキューイングし、データを分割して伝送するようにしたことを特徴とする仮想計算機システムにおけるデータ低送制御方式。

3. 强明の詳細な説明

(概要)

各仮患針算確上で動作するOSの外部配情装置 に対するアクセス性能を、仮思計算機モニタによ り制御できるようにした仮想計算機システムにお けるデータ転送倒額方式に関し、

外部記憶築置に対する大量のデータを送により。 他の仮想計算機の要求が長時間待たされることが ないようにすることを目的とし、

各級部計算器の転送便先度に関する定義情報を 記憶する事限と、オペレーティング・システムか らの主記憶装置と外部記憶装置間のデータ転送要 求をキューイングする手程と、転送優先度に従っ

待閒平3-288934 (2)

て、1回の転送データ品を短く制限する手段と、 短く構成した転送データ長でデータ転送要求を代 行する手段とを備え、オペレーティング・システ **ムからの要求が済足されなかった場合には、仮想** 計算機モニタ内で自動的にまたはオペレーティン グ・システムからの要求により、再度不足分の要 求をキューイングレ、データを分割して転送する ように構成する。

【産業上の利用分野】

本発明は、各仮想計算機上で動作するオペレー ティング・システム(OS)の外部記憶装置に対 するアクセス性能を、仮想針算種モニタにより関 初できるようにした仮想計算機システムにおける データ伝送剤組方式に関する。

コンピュータシステムの大規模化および高速化 の要求に伴い、外部記憶装置によるシステム内/ システム間の高速・大量データ転送が実現されよ うとしている。仮想計算機システムにおいても阿 じ要求があり、各版組計算機(VM)ごとに、外

よりも少ないことがあり得るため、ある仮想計算 機が大量のデータを外部記憶装置へ転送すると。 その仮想計算機が点記憶装置と外部記憶装置間の パスを基時間取有することになり、専有できなか った他の仮想計算機の転送要求が大幅に遅れ、転 送が完了するまで長時間待たされることが発生す

(発明が解決しようとする課題)

したかって、仮想計算機上で動作する05が、 例えばページング処理などのOS全体の性能に膨 書する箇所で、主記憶装置と外部記憶装置商の転 送を行っている場合などは、OSの性能に大きな 影響を与えてしまうことになり、結果として仮想 計算程ごとの性能に大きな値りができてしまう。

本発明は、各仮想計算機上で動作するOSの外 部記性器置に対するデータ転送の性能を、仮想計 宣機モエタにより前悔できるようにし、外部記律 整理に対する大量のデータ転送により、他の仮想 計算機の要求が長時間待たされることがないよう

部記性装置を割り当てることにより、外部記律装 置による仮想計算機内/仮想計算機間のデータ転 送を実現しようとしている。

しかし。データ転送量が多い場合には。データ 転送処理が、ある特定の仮想計算機に偏ってしま い、性能上の問題が発生するおそれがある。

そのため、仮想計算機モニタにより、各仮都計 算機からの要求を、 パランスよく制御できるデー 夕転送制御方式が必要となる。

(従来の技術)

仮想計算機システムではないネイティブ環境の システムにおいては、外部記憶装置と主記憶装置 との間のバス数は、一般にシステムの数より少な (なることはない。そのため、主記性強電と外部 記憶袋置間の転送に用いるパスが、微システムで 使用されていることにより、伝送要求が待たされ ることはない。

ところが。仮想計算機シスチムでは、主記憶験 置と外部記憶装置間のバス数が、仮想計算額の数

にすることを目的としている。

(課題を解決するための手段)

第1回は本発明の原理説明図である。

第1回において、10は仮想計算器(VM)。 11は各仮想計算機10上で動作するオペレーテ ィング・システム(05)、12は仮想計算報1 0 を制御するVMモニタ、13は転送要求キュー イング部、14は転送便先度記憶部、15は転送 基制隔部、16は転送命令代行部、17は転送器 り長気出部、18は外部記憶装置、19は主記律 強量。20はパスを変す。

外部記憶装置18は、例えば半導体で構成され, 高速にアクセスすることができる記憶装置であっ て、 車記性監査19とは別に数けられるものであ る。外部記憶装置18に対するアクセスは、入出 力会会によらずに、CPUの非同盟転送命令によ って行うことができるようになっている。

パス20は、外部記憶装置18と単記憶装置1 9 間のデータ転送経路であって、それぞれが並行

特別平3-288934.(9)

にデータを転送できるようになっているものである。例えばパス20が3本あれば、国時に最大で 3つのデータ転送を進行できる。

本発明では、あらかじめ各仮然計算機10の構成定義情報をシステムに登録する際に、各仮抵計 算機10の転送優先度を登録できるようになって いる。転送優先度記憶部14は、その各仮抵計算 数10ごとの転送優先度を記憶する。

仮想計算機10で動作するオペレーティング・システム11が、外部記憶装置18と主記憶装置 19間の非同期転送命令を発行すると、VMモニタ12がそれをインタセプトレ、転送要求キューイング部13を起動する。

転送要求キューイング部13は、その非同期転送命令に関する要求を内部のキューにつなぎ込む 処理を行う。

実際のデータ転送処理は、キューから製水を1 つずつ取り出して行う。取り出した要求について、 転送品制限部15は、転送優先皮配性部14に配 性されている要求元の仮想計算機10の転送優先 度に従って、1回の転送データ長を照く制限する。 すなわち、要求された転送データ長が、転送優先 底に応じた転送データ長の制限よりも長い場合。 要求された転送データ長を分割し、データ転送長 の制限以下になるように狙くする。

なお、転送優先度記憶部 I 4 には、各仮想計算機 1 0 ごとに制限する転送データ長の数額を直接的に記憶するようにしてもよい。

転送命令代行部16は、短く制限した転送デーク長で、仮想針算機10のオペレーティング・システム11の代わりに、非同期転送命令を発行する。これにより、主記律装置19と外部記憶整置18間のデータ転送が開始される。

このデータ転送が定了したならば、転送残り長年出部17により、要求された転送データ長のうち、まだ転送していない転送データ長を針算し、 オペレーティング・システム11からの要求が得 見されたかどうかを判定する。

オペレーディング・システム11からの要求が 後足されなかった場合には、VMモエタ12内で、

再度不足分の伝送データ長の低送更求を、転送要求キューイング部13が管理するキューに、再キューイングする。

または不足分の転送デーク長を要求元のオペレーティング・システム 1 1 に選知する。この場合。オペレーティング・システム 1 1 は、選知された情報に基づき。非同類転送命令により、転送されなかった分についてのデータ転送を再度要求する。オペレーティング・システム 1 1 に対して、転送の完了を通知する。

(作用)

本発明では、主記性整體19と外部記憶装置18間のパス20を使用する転送要求の転送データ 長を、各仮想計算程10に対して定義された転送 便免度に見合った転送データ長で分割し、途中で 他の仮想計算数10の転送要求を割り込ませるこ とができるように、VMモエタ12により、各級 想計算機10のデータ転送処理を制御する。 これにより、ある1つの仮想計算機10が主記 健装度19と外部記憶装置18間のベスを最時間 存有することが防止される。したがって、仮想計 覚疑10上で動作するオペレーティング・システム ム11が、オペレーティング・システム全体の性 能に影響する値所で、主記恒装置19と外部と便 強置18間のデータ転送を行っているときでも、 仮想計算機10ごとの転送に関係する性能に大き な場りができることがなくなる。

(変施例)

第2回は本発明の第一実施例処理構成例、第3回は本発明の第一実施例処理フロー、第4回は本発明の第二実施例処理構成例、第5回は本発明の第二実施例処理フロー、第6回は従来技術と本発明を比較するためのタイムチャートを示す。

第2回および第3回に使って、本発明の第一実 差別を設明する。以下の説明における①~⑪は、 第2回および第3回に示す①~⑪に対応する。

の 仮想計算機VM−Aで動作するOSが、非同

特捌平3-288934 (4)

調転送命令を発行し、主記憶装置18と外部記憶装置18間のデータ転送を要求すると、その 非向期転送命令をインタセプトし、転送要求キューイングが13により、その要求をキューイングする。この要求を表す要求データブロック 21には、転送元アドレス、転送先アドレス、 転送長等の情報が格納される。

- ② キューイングされた要求は、逐次、非関額転送制製御23により取り出される。
- ② その要求について、バス選択部22は、主記性装置19と外部記憶装置18間の変きバスを選択する。すなわち、外部記憶装置18のアドレスによって、複数のパス20が使用可能になっている場合に、各パス20について空いているか否かを制定し、空いているパス20を割り当てる。
- ④ 次に、転送長制限部15により、転送優先度 記憶部14を参照し、各仮想計算機ごとの転送 優先度に応じた1回当たりの転送長を算出する。
- ⑤ 非同期転送命令を、要求元の05の代わりに

発行し、ゲータ伝送を開始する。このデータ転送を開始する。このデータ転送を開始する。 に送要求キューイング部13によって受け付けることが

- ⑤ 仮想計算器 V M − A の O S が要求する転送が 完了するまでの間、例えば、仮想計算機 V M − Bで動作する O S から転送要求があれば、転送 要求キューイング部 I 3 により、その要求をキューイングする。
 - ② 転送完了時にその割込み通知を受ける。
 - (3) 転送が完了すると、要求された転送データ長とVMモニクにより代行した転送データ長を比較し、転送残り長xを算出する。
 - ⑤ この伝送残り長まがりかどうかにより、OSからの転送要求長が満足したかどうかを判定する。
 - 4 判定の結果、OSから要求されたデータ転送がすべて終了していれば、要求元のOSに転送の完了を通知する。
 - □ 転送残り長ょが0でない場合には、その残り

のデータ長ェの要求を作成し、転送要求キューイング部13が管理するキューの最後に、真皮キューイングして、OSからの要求が済たされるまで、VMモニタ内で以上の処理を扱り返す。 第4回および第5回は、本発明の第二実施例を示している。

前述した第一実施例では、OSからの要求が1回の転送で満足されなかった場合に、VMモニタ内で自動的に要求を再キューイングし、すべての転送が完了してから、OSに転送の完了を遊知す

これに対し、この第二実施例では、OSからの要求が1回の転送で満足されなかった場合に、V Mモニタにより、ハードウェア仕様またはOSとのハンドシェイクを使用して、OSからの要求が 満足されなかったこと、および転送されなかった 強りのデータ情報をOSに通知する。

OSは、その情報を基に、転送されなかったデータについて、再度データ転送要求を行う。

最終的にすべてのデータ転送が終わると、OS

に完了が通知される。

第4回および第6回に示す処理では、①~®が 第2回および第3回に示す①~®と同様である。 第二実施例の場合、処理®では、転送残り最よの 情報を作成し、転送残り最よが0か否かにより、 OSに対して完了適知または不足情報の通知を行 う。OSは、転送の不足分があるならば、不足分の要求を作成し、転送命令を再発行する。

外部記憶袋器に対するCPU命令としては、例 えば以下のような命令が用意されている。

- (ii) 主記性から外部記憶への仮想アドレスの指定 によるアータ転送を指示する命令。
- (c) 外部記憶から主記憶への仮想アドレスの指定 によるデータ転送を指示する命令。
- (c) 主記憶から外部記憶への実アドレスの指定によるデータ転送を指示する命令。
- (4) 外部記憶から主記憶への実アドレスの指定によるデータ転送を指示する命令。
- (a) 実際に転送された品さを求める命令。 このうち(a)~(d)は、CPUが要求の完了を時たな

特勝平3-288934 (5)

い非同額命令であり、似はCPUが要求の充了を 待つ同額命令である。

例えば仮想計算機VM~Aが、主記信装置と外 部記信装置間で、各8Gパイトの伝送要求を連続 的に行い、仮想計算機VM-Bが、各4Mパイト の転送要求を連続的に行うものとする。

この場合、健来技術によるデータ転送のタイム チャートは、第6図(イ)に示すようになる。タ イムチャートにおける実践部分は、データ転送中 を示し、点線部分は、同一パスを使用するために 転送待ちであることを示す。

世来技術の場合、各仮想計算機VM-A、VM-Bからの転送要求を、その主まVMモニタが代行するため、仮想計算機VM-Aの要求によるBGパイトのデータ転送が終了してから、仮想計算機VM-Bの4Mパイトのデータ転送要求が実行され、これが交互に繰り返される。したがって、特に仮想計算機VM-Bが、データベース処理やベージング処理などの高速性を必要とする処理を行っている場合などには、転送待ち時間が長く、

性能劣化の影響が大きかった。

これに対し、本犯明の場合、仮想計算機VM-Aに対してあらかじめ定義された転送優先度に応じて、8Gパイトのデータ転送要求を、VMモニタにより、例えば512Mパイトの転送要求に分割して、転送命令を代行する。

したかって、第6回(ロ)に示すように、各4 Mパイトの転送要求に対して、仮想計算機VM-Bが特たなければならない転送待ち時間は、5 1 2 Mパイトの転送時間であり、転送待ち時間が短縮される。

(果奴の限集)

以上説明したように、本発明によれば、仮想計算像上で動作するオペレーティング・システムからの主記性装置と外部記憶装置間のデータ転送要求をそのまま実行しないで、仮想計算機モエタにより、1回当たりのデータ転送量を仮想計算機ごとに制御して実行する。したがって、仮想計算機ごとの性能に大きな偏りが生じることがなく、バ

チンスのよいサービスが可能になる。

4. 図面の簡単な説明

銀1図は本発明の原理説明図。

第2回は本元明の第一実施例処理構成図。

第3回は本発明の第一実権例処理フロー。

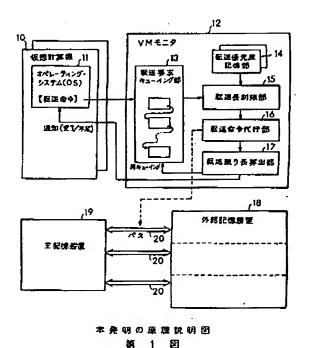
罪4回は本発明の第二実施例処理構成図。

第5団は本発明の第二実施例処理フロー。

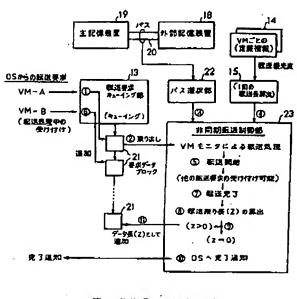
第6回は従来技術と本発明を比較するためのタ イムチャートを示す。

図中、10は仮想計算機、11はオペレーティング・システム、12はVMモニタ、13は低減要求キューイング部、14は配送優先度記憶部、15は転送機制限部、16は転送命令代行部。17は転送強り長耳出部、18は外部記憶強置。19は主記憶装置、20はバスを表す。

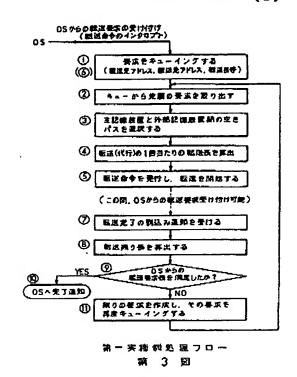
特許出職人 富士 選 株 式 会 社 代 理 人 弁理士 小笠原杏葉(外2名)

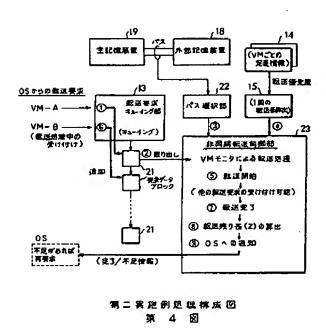


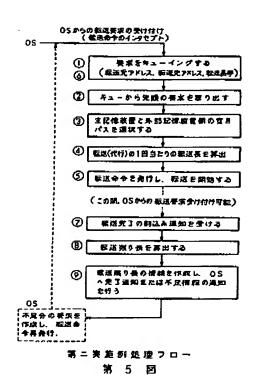
特原平3-288934 (合)



第一类推例处理模成员 第 2 図







-250-

特別平3-288934 (ア)

